

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400055		
法人名	株式会社 陽光		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	留萌郡小平町字小平町432-9		
自己評価作成日	平成27年5月31日	評価結果市町村受理日	平成27年7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0196400055-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0196400055-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年7月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「ここで良かった」と思ってもらえるような介護・介助支援を目指します。②利用者様それぞれの個性を生かせるような支援体制の整備。③同敷地内に併設されており、有料老人ホームとの交流、情報を共有する事で協力体制をとっております。④町内での行事への見学・参加等の交流。⑤面会・訪問・施設見学等は随時対応可能です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<働く職員の就業環境の整備>**  
職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、労働時間ややりがい、希望休の取得など安心して働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。また、スキルアップ研修参加や資格取得を奨励してサービス向上に努めると共にリフレッシュ休暇が取得できるよう勤務体制づくりを検討している。

**<地元の人々との関係づくり>**  
利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、幼稚園の運動会や小学校、中学校の生徒の発表会への参加、町内の文化展への出品、地元での買い物や事業所主催の夏祭り開催、日本舞踏等のボランティアの受け入れなどで事業所自身が地域の一員として地元の人々と日常的に交流している。

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・3つの理念を分りやすく具体的に、各所の壁に掲示し 職員一人ひとり実践につなげていけるように心掛けております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、職員会議で話し合い、その理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・社内行事の際は、近隣住民やご家族へのお誘いや町内飲食店へ外食・出前依頼。また、食材の購入・日用雑貨の買い物や訪問販売。床屋さんの菜園によるカット。	地域とつながりながら暮らし続けられるよう、幼稚園の運動会や小学校、中学校の生徒の発表会への参加、地元での買い物や事業所主催の夏祭り開催などで地元の人々と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・推進会議等を活かし地域への発信、随時施設見学の受け入れを行なっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者様の日々の状況報告・入居状況・活動内容等の報告又対応に対する相談や意見を頂きサービスに繋げていけるようにしております。開催は偶数月の開催を基本とし年6回行なっております。	運営推進会議は、年6回を目安に開催して事業所の取り組み状況や日常生活等の具体的な内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・電話や文章などでの報告や相談をし、意見を取り入れる等の対応をしております。	町担当者及び包括支援センターとは日常的に相談や情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は全職員がしないと踏まえ、研修への参加・ミーティングでの話し合いをし 危険回避の方法をその時その時、皆で意見を出し検討します。また、役場担当者へ相談したり アドバイスを頂いたりしております。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修や外部研修参加を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修への参加・ミーティング時に内部研修の形で全職員で検討し話し合いを行ないます。また、自己診断にて自己覚知したり、「公」「私」共にストレスを溜めない等 予防に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度については把握していますが、研修の機会は充分ではありません。今後、職員個々のスキルアップに努めたり、利用者様の必要に応じ活用していけるような形を目指し機会があれば研修にも参加していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結時・解約・改定時には納得し・理解して頂ける様説明を心掛けております。文書での伝達も行い、疑問点がある時には、随時説明を行ないます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見・要望がありましたら口頭で受けられるような雰囲気作り・また、玄関に意見箱を設置し意見などを伝えやすい形を取っております。運営推進会議等において報告したり、参加者の方々の意見を集うなど、運営に反映出来る様努めております。	苦情等の第三者機関の申し出先を見やすい場所に掲示していると共に「意見箱」を設置し、来訪者や家族等が意見や苦情等を言い表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員会議や日々の申し送り時に意見を交換したり、気になる事の報告や相談を頂き、検討し運営に反映出来るよう努めております。	職員会議や日常業務等を通じて職員の意見や提案を言い表せる機会を設けている。また、職員はすべて正社員で雇用し、就業環境整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格に応じ手当ての支給があり、スキルアップに関しての研修や資格取得推奨や公休は月3回まで希望休の聞き取り実施を行なっております。今後の課題としてリフレッシュ休暇の導入の検討を考慮に入れ 職員が意欲的に働けるよう環境整備に努めていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修への参加促進や内部研修での知識の習得。ここで働いている一人ひとりが、今出来る事を行ってひとつになる事 ケアに関して教え教えられお互いを認めた上でより良い物になって行く事を理想としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・隣接する同社の有料老人ホームと定期的に「リーダー会議」を行い 意見交換を行い職員に周知しサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前面接において、不安等の確認をし職員に周知し個々に合わせた対応を心掛けています。又、入居後の不安・要望は全職員間で共有し随時対応できるよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前面接時や入居後でも不安や希望などが有りましたら 随時傾聴し、こちらからも相談し安心した生活が送れるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面接時、希望されるサービスの相談や必要なサービスを提供できるよう努めております。又、他のサービス利用されている場合は継続していくかを確認し対応いたします。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・御本人が出来る事を活かし、「一緒に暮らしているんだな」と実感して貰える事や、普通の日常を心掛ける中でよい関係を築いて行けるよう努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・来所された際は、近況報告を行ったり、定期的に生活状況報告を郵送しご本人と近い関係でいられる様に支援できるよう努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問時は居室でお話して頂いたり、御本人や家族様が希望される場合は、外出・外泊など可能な範囲で対応し、今までの関係を継続できるように努めております。	幼稚園や小学校の行事参加や町内での買い物や外食等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共通の話題・関係性などを把握し職員が接点となり、配慮し良好な関係を築けるように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院時の医師からのお話など、必要であれば同行し立ちあったり、入院中の面会・他界された場合の葬儀への参列など臨機応変な対応をしております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の行動や相談・会話からそれぞれの思いを汲み取り 職員間で共有しその人らしい生活が出来よう努めております。又、ケアプランに活かし希望に添えるよう支援しております。	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族からの情報や御本人との会話の中から知り得た事、個人記録を参考にしたりしながら、生活歴・生活環境・どのような状況下でサービスを使用しているか等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間での情報の共有(申し送り・職員会議)し、話し合いや記録に残す等で一人ひとりの状況把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員会議等での話し合い、ご家族への相談等行う等の対応や、担当制を作りケアノートを作成し 気になる事・気付いた事等を記入し どうしたら良いかと言う事を検討 ケアプランに活かせるよう努めております。	本人、家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・担当制で個別ケアを行い 一日の流れを書き出しそれぞれの職員が目を通し、自分との違いを付箋に書き記し、見直ししながら実践やケアプランの見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・それぞれの利用者様に合う対応と言うことで、色々な意見(テレビ・新聞・研修等)を取り入れながら手探りの状態ではありますが 色々な方法を取り入れるよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・食材の調達・消耗品の購入・舞踊・演劇鑑賞・文化展への参加・外食・幼稚園の行事見学等地域との交流を図れるよう努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・御本人・ご家族の希望や入居前から通院していた医療機関に通えるよう支援しております。特変事や救急時は救急外来の設備のある総合病院への受診を行なう場合も有ります。	往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員の配置はありませんが、医療的な相談等は同敷地内で隣接する有料老人ホームの看護職員又、協力医療機関の医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中の情報交換は病院・家族様と行い状況の把握に努め、退院時も今後の対応法の相談等行う他、退院後の通院時にも必要に応じ相談を行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・緊急時・特変時には通院や協力医との相談の上対応しております。終末期ケアにつきましては、体制が不十分な為行なえておりませんが、出来る範囲での協力・医療処置が必要な場合は医療機関と相談を行っております。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時にはマニュアルの作成等、スタッフルームに各マニュアルを常備し、いつでも閲覧可能な状態にしております。消防署の指導により救命講習を受けて備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回火災避難訓練の実施や施設内にスプリンクラーの設置もしております。又、訓練時は夜間の手薄な時間と言う事で色々形を想定しております。津波・地震等の災害時の避難場所は同地域の観音寺となっております。	地震・津波等の自然災害に対応した準備や昼夜を想定した年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室は全て一人部屋で対応、トイレは共用ですがカーテンを設置しております。入浴も一人ひとりと出来る限りプライバシーの確保できるよう努めております。声掛けは一人ひとりに合わせた声掛け・態度など注意しながら対応しております。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように声かけや誘導等を工夫して職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来る限り御本人の意思を尊重しながら、意思表示が出来ない方への声掛けを行なう等、自己決定の出来る環境づくりに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・入居者様優先を心掛け、一人ひとりのペースに合わせてを重視しながら、体調や状態に配慮し支援する様努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服はご自身で選ぶ、選べない方はその人らしい服装を御本人に確認しながら決めております。起床時・昼寝後など整髪・整容等行なう、声掛けする等の支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好み・咀嚼力・アレルギー・嚥下機能などに配慮し状態に合わせた提供を行なっております。食卓は皆さんの顔が見えるように、又安全も考慮しております。	町内での外食や事業所主催の夏祭りで野外での喫食等、食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量・水分量は確認を行い、個別記録にて把握できるようにしております。一人ひとりに合わせ 状態を見ながら水分の提供や間食を取って頂くようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床・就寝時の他 3食後の口腔ケアの実施、口腔リンスにて口腔内の衛生に気をつけて支援しております。入れ歯使用の方は就寝時預かり、入れ歯洗浄剤に付ける等の対応をしております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・個々の排泄パターンを把握し、日中・夜間と声掛けトイレ誘導を行います。夜間は状態により危険の無いような対応を心掛けております。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日々、水分補給を心がけております。排便量・周期等を把握し申し送り 3日を目標に医師に確認し下剤を使用する等の対応をしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	・週2回の入浴を目標としますが、御本人の希望・状態により変更する事もあります。極力希望を優先しタイミングのあった時に入浴して頂くよう支援しております。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2~3回を目安に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間、不眠・不穏傾向のある方水分を提供するなど安眠できる環境づくり、日中は昼寝をする。就寝時も眠くなった時に横になる等状況に合わせて支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・お薬情報ファイルをいつでも確認出来るようスタッフルームに配置しております。事故防止の為、開封時、服薬時と都度確認するよう努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴・現状に合わせて個々ができる範囲での役割や、趣味活動・レク等を楽し行なえる様支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・消耗品・食材等の買い物時は声掛けしたり、季節に応じドライブ・戸外でのレクリエーション・外食などの実施・幼稚園行事や町の行事の見学と出来る範囲で行っております。	町内での買い物や近隣散歩、花見や地域のお祭り見物、幼稚園の運動会や小学校の行事見物など戸外に出かけられるように支援している。	身体機能の低下により、本人の外出への希望が少なくなってきたり、外出拒否が強い方も増えてきているが、職員の配置やリスクを考慮しながら戸外に出かけられるよう職員間で話し合っているの、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人管理可能な方は通院時や外部からの訪問販売時に買い物をされたりしております。金銭管理が困難な方は、物をご自身が選び支払いを代行しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自由に使える電話の設置はありませんが、申し出がある時は取り次ぎは行なっております。手紙も必要に応じ代筆したりしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節ごとに Dルームやホール内を装飾したり、行事の写真の展示、月1回発行の通信紙の掲示を行なっております。装飾品は職員と利用者様共同制作を心掛けております。	共用空間では、行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用のスペースは、動線を確保しながら車椅子移動も出来るような配置を考えております。台所からの食事準備の香りや音から生活を感じ、居心地よく過ごせるよう工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた筆筒・ベットの持ち込み また、希望があれば仏壇の持ち込みも可能で、壁には写真・作品などを貼る等、心地よく生活出来るよう努めております。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・「トイレ」「お風呂」などの表示、居室入り口には屋号・名前・自分の作品等目印を付けて対応して個々が分りやすいように工夫しております。施設内はバリアフリー対応、必要箇所には手摺を設置しております。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家

作成日: 平成 27年 7月 27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	49	・入居者様の介護度の上昇・機能の低下などにより外出が少なくなっている。	・みんなで出掛ける事が目標ではあるが、状態もある為 出来る事を出来る範囲で行なって行きたい。	・一緒に外出が出来ない時は、ビデオカメラ・カメラで様子を知らせてあげたり、出前等の活用をする等の事で検討していく。	6ヶ月
2	12	・職員の不足により、勤務体制が不安定である。	・有給の消化・リフレッシュ休暇の導入を出来るような勤務体制を目標とします。	・職員の確保・シフトの調整により出来るだけ有給の取りやすい状況を維持していく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。